

I 学校評価の結果

1 学校教育について

(1) 地域関係者アンケートより

①地域・学校での様子から、浦川の子供たちについて

- 出会えば大きな声で挨拶でき、明るく、素直である。地域が明るくなる。
- 出会うたびに子供から挨拶される。ふるさと浦川を大切に思う心が育っている。
- 子供が少ないせいか、総じて仲良し。
- 日曜日には、元気よく遊んでいる。
- 小集団の中で互いの存在が固定化されやすく、自己を主張するのが難しいところがあるが、自分では気付きにくいよさを学校生活の中で引き出し、伸ばしている。
- ▲外で元気よく遊ぶ姿が見えない。公園があったら…という声を聞いたが、野原や河原など、いっぱいあるのに遊び方を知らないのかな。
- ▲子供が少ないのでかわいそう。
- ▲がむしゃらに活動するたくましさにやや欠ける。
- ▲なかなか浦川小児童と接する機会が少ないので様子が分からない。

②地域で子供を育てるために学校が果たす役割

- ・親と子供と一緒に働く機会（資源回収）の設定。
- ・地域からの要望でも、できること、できないことを曖昧にせず、はっきり対応することが大事かと思う。
- ・自分の孫が卒業すると関わらなくなる。昔の暮らしや食べ物などに関して、子供と一緒に参加する行事。
- ・「学ぼう！ふるさと浦川」の発行、感謝します。地域との交流を深める学習をしていただくことで、若い親たちが地域を知るようになりました。祖父母と孫との話題にもなっているようです。
- ・浦川歌舞伎により、地域の大人から指導を受け、マナーやコミュニケーションの仕方などを学んでおり、学校も協力し、励ましている様子を感じる。

③学校への意見・要望

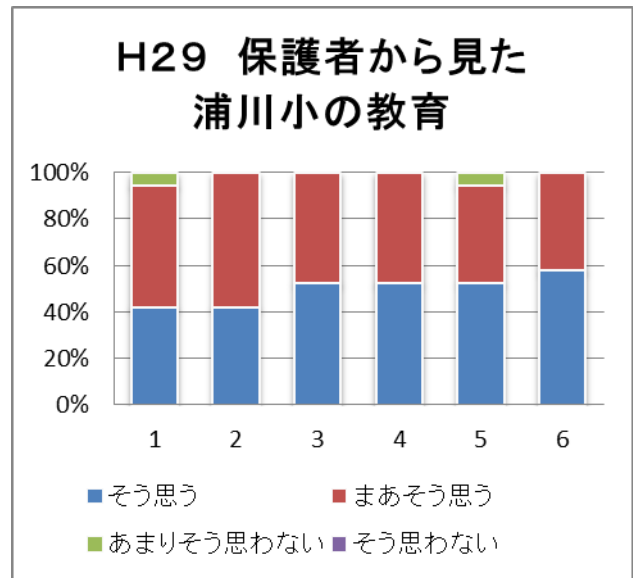
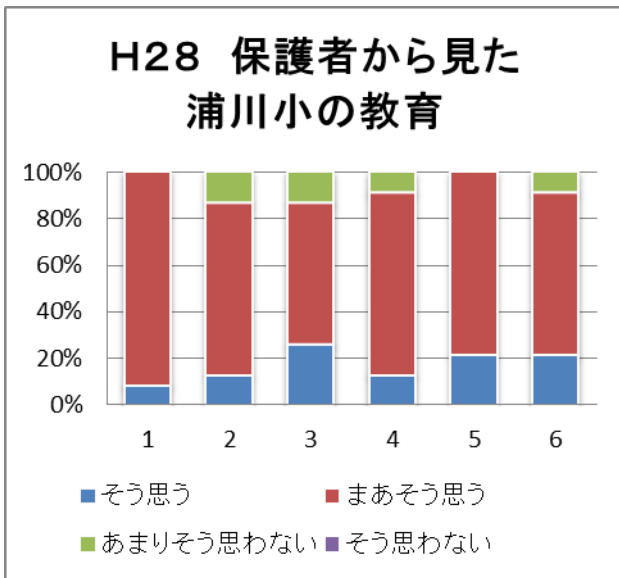
- ・浦川小の証となるように、学芸員や指導主事、子供たちと一緒に、上市場遺跡の探検発掘が行われることを夢みている。
- ・優しく、明るい子供に育ててほしい。
- ・物が豊富で簡単に手に入る時代、物を大切に扱う習慣を身に付けてほしい。
- ・感性の醸成のために、自然とふれ合うカリキュラムを取り入れる。
- ・学びの基本、基本的知識の定着、自ら学ぼうとする力の育成を期待する。
- ・地域の人に会ったら挨拶する習慣により、地域の児童への関心も高まる。
- ・先生方の並々ならぬ熱心な御指導に心より感謝申し上げます。地域にも呼び掛け、子供がのびのびと暮らせる浦川にするため、お手伝いいたします。
- ・先生方の顔を知ることができたので、次は親の顔を知りたいと思いました。
- ・北遠初見参の先生方が地域を教材に取り組み姿に感謝します。後に続く先生方に伝わるように種を残してください。
- ・生きていく力を育ててほしい。
- ・川合など工事車両が多く、通学路もあるので、危険がないようお願いします。
- ・事件、事故に巻き込まれることのないように見守りをお願いします。
- ・人権ひまわり、作品出展などの御協力いただき、感謝しています。
- ・地域や周りの人、友達などに思いやりある子供に育ててほしい。

地域の人に対しても、まずまず挨拶ができていく様子が感じられる。子や孫が卒業した方々との子供たちとの接点が少ないようである。地域の人・もの・こととの交流による体験学習を通して、「生きる力」の育成が継続的に行われることに期待している。

(2) 保護者アンケートより

*指数 = (そう思う×1+まあそう思う×0.75+あまりそう思わない×0.25+そう思わない×0) / 人数
つまり、回答者全員が「そう思う」と回答した場合を 100 とする数を表す。

No.	質問	H 2 8	H 2 9
1	確かな学力が身に付く取り組みをしている。	7 7	8 3
2	思いやりの心を育て、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	7 2	8 6
3	たくましい体を鍛える取り組みをしている。	7 5	8 8
4	三者面談など相談しやすい環境を作り、家庭と連携している。	7 4	8 8
5	家庭や地域に情報を発信し、連携・協力している。	8 0	8 6
6	子供の健康や安全に気を配っている。	7 6	8 9
	平均	7 6	8 7



ここ 3、4 年で最も高い評価である。「まあそう思う」、「あまりそう思わない」が減り、「そう思う」が増えている。現保護者から一定の評価を受けていると考えられるので、今後さらにより信頼関係を気付いていくことができるよう努めたい。

<自由記述より>

- 少人数もあり、個性を生かした教育をしてくれている。
- 少人数なので、きめ細かな指導や見届けがとてもありがたい。
- かがやきタイムは、自己発揮や認め合いにつながりよいと思う。友達の良いところを認め合う雰囲気が伝わってきた。
- 部活動の大会を参観して、とても成長していると感じた。最後まで頑張る姿は素晴らしいと思った。御指導ありがとうございます。
- ▲学年にあった家庭学習ができるとよい。課題が少ないので学年に合っていない。
- ▲給食の時間が短いと思う。幼稚園では、苦手なものも食べていたが、小学校では先に減らすことになっている。
- ▲相手の目を見て挨拶できるようになってほしい。
- ▲P T A 役員への負担は、その時の役員内で分散するように配慮してほしい。行けそうだということで毎回頼まれるのは、正直つらいところがある。
- ▲恥ずかしいことが前面に出て、知らない人に挨拶が上手くできない。ただ、小さな地域なので、知っている人が多く、安心してできている。
 - ・言葉遣いが常に悪いのではなく、遊びの最中やテンションが上がったときに乱暴な言葉がある。それを本人が覚えていないことがある。
 - ・音楽発表会の日健全育成会と一緒にやれば、お客様も多い。

2 児童の姿について

(1) 児童・保護者・教職員へのアンケートより

*上段：H28・下段：H29

No.	質問	児童	保護者	教職員	
1	自分の思い・考えを發表している。	80	81	79	
		75	76	66	
2	毎日、家庭学習に取り組んでいる。	88	66	75	
		90	81	81	
3	よく本を読んでいる。	58	58	76	
		53	55	66	
4	気持ちのよい挨拶や返事をしている。	81	80	75	
		91	72	78	
5	時と場に合った正しい言葉遣いをしている。	63	55	39	
		63	64	63	
6	進んで運動に取り組み、体力が向上している。	77	72	82	
		84	84	91	
7	健康や安全に気を付けて生活している。	86	74	75	
		83	88	72	
8	仲よく思いやりをもって生活している。	83	74	79	
		83	88	81	
9	基礎的・基本的な学習内容が身に付いている。	76	65	75	
		72	79	72	
10	自分らしさ(自分のよさ)を發揮し、楽しく学校に通っている。 *下線部はH29追加	96	93	93	
		91	90	84	
	*グラフは次ページ	平均	79	72	75
			78	78	75

例年、保護者の評価は、子供のそれより低い傾向にある。本年度は、保護者の評価が高まり、全体的には子供と保護者の評価が同程度となっている。その中で、

- ・ 1 発表は、例年より全体的にやや低い。
- ・ 2 家庭学習には、真面目に取り組んでいるが、保護者から量・質的な意見もある。
- ・ 3 読書は、例年やや低い傾向が続いている。
- ・ 5 言葉遣いは、特に保護者、教職員について、評価が高まった。
- ・ 6 体力、7 健康・安全、8 思いやりは、まずまずであり、子供から頑張ったこととしても挙げられている。
- ・ 9 学力について、保護者の評価がやや高まっている。

(2) 児童の自由記述より

①浦川小のみんなが頑張っていたこと

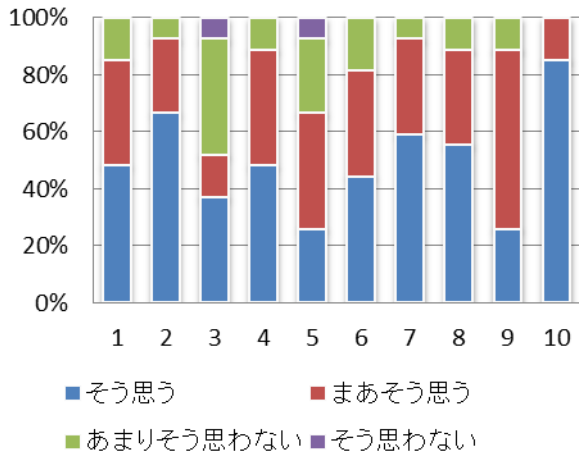
- ★運動(縄跳び、一輪車、鉄棒、走る) ★挨拶 ☆みんな仲よく遊んでいる
 ・清掃 ・手伝い ・授業 ・思いやり ・月ごとのめあて ・かがやきタイム
 ・自分らしさが輝いた ・机やロッカーの整頓

②学校やみんなの「もっとこうなったら」

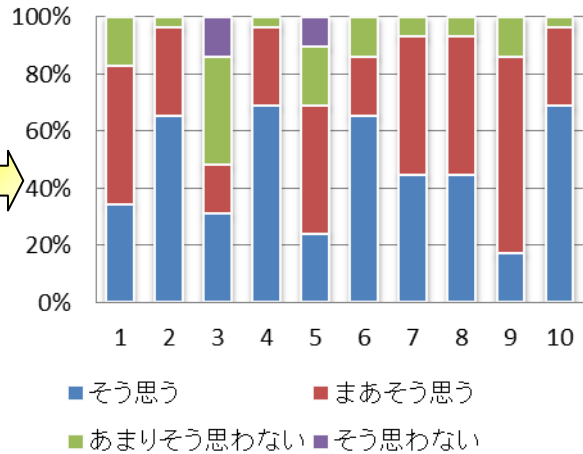
- ★(昼休み、上級生と)もっと遊ぶ(時間) ☆きれいな学校(ごみがない)
 ◎けんかなし(仲よく遊ぶ、悪口なし、人の好き嫌い) ○言葉遣い ・挨拶
 ・有名人が来てほしい ・くつの整頓 ・下校時間を早く ・廊下を走らない
 ・行事や特別授業

(回答数 ・ <○<◎<☆<★)

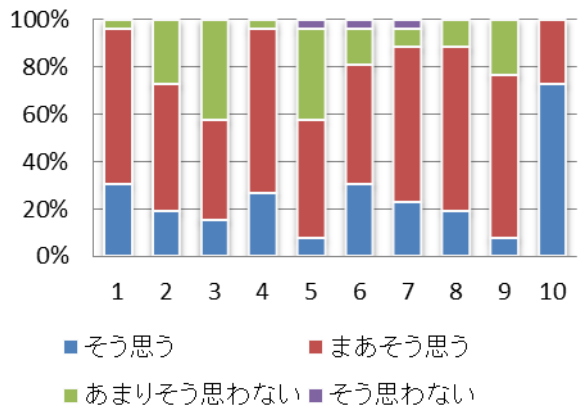
H28 児童自身の姿



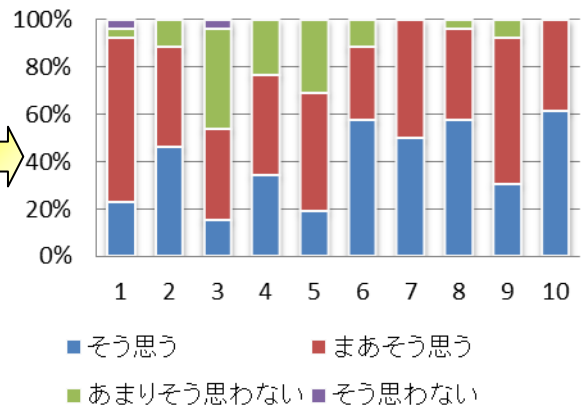
H29 児童自身の姿



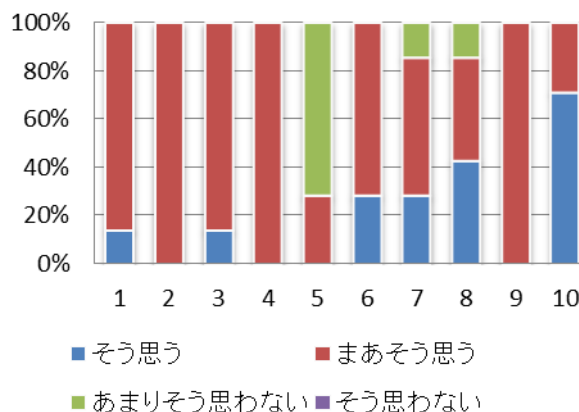
H28 保護者から見た児童の姿



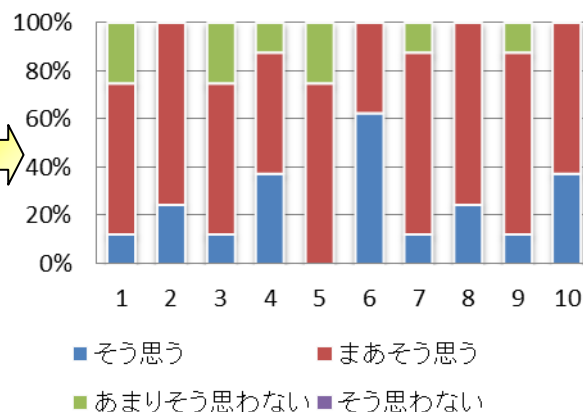
H29 保護者から見た児童の姿



H28 教職員から見た児童の姿



H29 教職員から見た児童の姿



Ⅱ 成果と課題 ～3つのプランについて～

1 学び合い

- 「浦川小のきまり」を見直し、学習における規律が高まっている。
- 学校評価では、確かな学力、基礎・基本の項目について、児童、教職員の評価は例年並みであったが、保護者の評価が高まっている。
- 6年生全国学力状況調査は、全国平均正答率と比較し、国語は知識・技能、活用とも「満足できる」、算数は知識・技能、活用とも「十分満足できる」状況であった。
- 県定着度調査において、算数は全学年「概ね満足できる」状況であった。
- △県定着度調査において、国語は「やや課題がある」状況であった。書く力、読む力を一層高めたい。
- △学校評価では、読書が低く、考えや思いの発表は昨年よりやや低かった。
- △自分の考え、感想を自主的に堂々と述べる力、表現力を一層高めたい。
- △より教科の有用感を感じ、受け身的ではなく、深く思考し合って自主的に学び合う姿を求めたい。

2 認め合い

- 月ごとの「生活のめあて」により、全校共通理解で挨拶や返事など、生活の規律やマナーを高める意識が見られた。
- いじめとして認知される事柄はなかった。学校評価でも、いじめのない学校づくり相談しやすい環境づくりへの評価が高まった。
- かがやきタイムや縦割活動において、自分らしさや友達のよさに気付く感性を高める手立てが進んでいる。
- △言葉遣いについては、なかなか成果が表れず課題が残っている。
- △高学年をリーダーとして一層養成し、自分たちで気付き、考え、実践する力を高めたい。

3 鍛え合い

- 業間運動や全校運動に継続的に取り組み、特に走力に成果が見られる。
- 縦割班や学級で全校運動に取り組み、縄跳びや一輪車、竹馬などができるようになりたいと教え合いながら取り組む様子が高まった。
- 手洗い・うがいや姿勢など、健康タイムにおいて、全校児童に対して、子供の実態に応じた指導を行い、意識を高めることができた。
- △体力的課題では、跳躍力や柔軟性が挙げられる。
- △自らを成長させようとする意識を一層高め、計画的に努力できる力を向上させたい。

Ⅲ 平成30年度教育活動の方向付け

1 学年別人数

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
人数(人)	4	8	1	4	6	6	29

2 学級編制(担任4人)と授業形態

学級	1年生	2年生	3・4年生	5・6年生	計
人数(人)	4	8	5	12	29

算数科・書写の複式授業のほか、目標・学習内容が2学年まとめて定められている教科・領域や授業時数などとの関連から、1・2年、3・4年、5・6年を1つの集団として扱う方が効果的な学習活動が期待できる教科(音楽科、図画工作科、体育科、道徳科、総合的な学習の時間、1・2年の生活科、3・4年の外国語活動、5・6年の家庭科・外国語)では、AB年度方式の合同授業を行う。4学級となるが、32年度の再完全複式化を見通して、1・2年生も複式や合同の授業を進めていく。その際、新年度における教職員配置を最善に活用できる方法を検討していく。

3 教育活動の重点と3つのプランの方向性

(1) 教育活動の重点 「気付き、考え、やってみる子」の育成

キャリア教育を推進し、外に開き・外に出ることで他者や地域、社会との関わりを通して、主体性、実行力、学び合う力を高めるとともに、自己肯定感をもって、自らの資質・能力を発揮していく。

(2) 3つのプランにおける柱

①学び合い（知）

- ・H32新学習指導要領全面実施に向けて（H30・31移行措置期間）
水曜日日課新設（3～6年生の週1時間増）

- ・主張の場 かがやき発表

かがやきタイムを発展的に継続し、言語活動を充実させ、表現力を高める。

- ・校内研修 3つの「出会いと対話」に重点を置いた「学び」の構築

対象世界（もの、ひと、こと）との出会いと対話 → 活動的な学び

他者の思考との出会いと対話 → 協同的な学び

自分自身との出会いと対話 → 内省的な学び(振り返りによる教科の有用感)

②支え合い（徳）

- ・福祉交流学習

全学年におけるデイサービス等の計画的交流

- ・リーダー養成

入学式、給食、清掃、昼休み、登下校、1年生を迎える会、運動会、全校運動、業間運動、会礼、わんぱくタイムにおける計画的活動

③鍛え合い（体）

- ・体力的課題への手立て

全校運動 50m走とボール投げ・雲梯・登り棒・走り幅跳びなどのサーキット

業間運動 3分走とストレッチ（リーダー養成と連携）

- ・運動部活（水泳・陸上）

自己目標の設定と達成

グループごとのメニューによる自主的練習（リーダー養成）

- ・ボランティア

全校による運動場整備（運動会へ向け草取りなど）、河川美化、マラソンコース整備。学級（1・2年は合同）ごとに、校内や学校周辺のボランティアを実施。

- ・健康タイムにおける食育や人間関係づくり（構成的エンカウンター）等の充実

IV 学校評議員会（幼小合同）での意見・助言

(1) 子供の数の減少に関して

- ・園児、児童数が減少する中、教職員数も減少し負担が大きくなるのではないか。

働き方改革が叫ばれる中、行政面からの人的補助を期待したい

- ・年々児童数が減っている状況を踏まえ、少人数のよさを生かしたきめ細やかな指導を心掛けてほしい。

(2) 3つのプランに関して

- ・少人数のデメリットであるコミュニケーションの不足を、他校・他園との交流を含め工夫して補ってほしい。

- ・基礎学力向上のため、短時間でも継続的指導の場を設定することも有効である。

- ・教育活動を一層外に開き、子供たちの主体性や実行力、自己肯定感などを養いたいという学校の経営方針が示された。学校運営協議会を推進し、地域の人材や教材がさらに活用され、体験活動等が充実するように支える準備を進めている。